

社会科

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能

イ 思考力、判断力、表現力等

地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に活用して調べまとめる技能を身に付ける。

社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第3学年	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を扱っていないため、資料から必要な情報を読み取ることが難しい。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を活用することで、分からなかったことを知るということを体験させ、資料の有意義さを理解させる。 資料を活用する場面を学習の中に意図的に増やす。 資料の中で何に注目したらより有効かを見極める視点を与え、自分でも見付けられるように指導する。 他の児童が気付いたことを共有できる場や時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～2月 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取る活動を繰り返し行う中で、児童は、何をどのように読み取ったら良いのか分かってきた。今後は、資料から分かったことと、そこから考えたことを分けて表現できるようにさせたい。
	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだ事実を基に、社会的事象の特色をまとめることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを掲示するなどして、振り返ることができるような手だてや時間を設ける。 どのような特色があるか一度全体で共有してから個人でまとめさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～2月 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科見学で見たことや気付いたことなどを新聞にまとめることで、学習を振り返ることができた。児童の発言から、言葉では気付いていることが伺えたが、図や文にして表すことは難しいようだった。
第4学年	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から気付きを導くことはできるが、課題を解決するために必要な情報を読み取ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 着目させたい視点を意識して、資料を提示したり、発問をしたりする。 意図的に地図帳を活用する機会を増やすことで、地図帳を活用する習慣を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～2月 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を読み取らせるために、問われていることや、キーワードを示すことで、読み取れるようになってきた。 地図帳を見る時間を設けたことで、地名やデータ資料に興味をもつようになった。

	イ <ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの資料から読み取った事実を関連させて考える力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実を調べる活動とその事実を基に意図や目的について考える活動を設定することで、事実を関連させて意図や目的を考えられるようにする。 毎時間の終末に、本時で分かった具体的な事実を使って、自分の言葉で学習課題に対する答えをまとめる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～2月 	<ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを使って、一つ一つの事実から共通点を見出す手立てをとった。事実を関連づけて考えるようになってきている。
第5学年	ア <ul style="list-style-type: none"> 資料から、調べる目的に必要な情報を選ぶことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や地球儀、統計など、各種資料から、必要な情報を収集・選択できるように、ねらいにふさわしい情報はどれなのか考えさせるようにする。 調べる際に資料を読み取る視点を示し、事実を適切に掴めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～2月 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決のために何を調べればよいのかを考えてから資料収集を行う習慣が身に付いてきた。
	イ <ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を関連付けて整理・分析し、社会的事象の意味を考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの資料から読み取れることを整理し、読み取った情報を関連付けて考えられるように発問する。 どの資料からどのようなことが分かったのか、根拠を明確にして伝えるなど、言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～2月 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの資料を丁寧に読み取るようになったことで、複数の資料を関連付けて考えられるようになってきている。
第6学年	ア <ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことから背景や傾向を考えることが難しい。 資料から読み取った内容を整理したりまとめたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料からどんな情報が読み取れるか、表面的な数値だけでなく、背景や傾向にも着目して考えさせ、全体で話し合うことで見方・考え方を身に付けさせていく。 板書を工夫することでノート作りの手本とし、調べた情報を羅列するだけでなく、項目ごとにくったり取捨選択したりしながら、整理・分類する力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～2月 	<ul style="list-style-type: none"> 問題に対して、どんな事実があったのかを考えながら資料を読み取るようになってきた。 項目別に調べる習慣が身に付いてきたので、情報を整理する力が付いてきた。
	イ <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の特色を理解し意味を考えたり、時代背景と結び付けて考えたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入で学習の流れや課題を確認し、既習の内容と結び付けながら進めることで、社会的事象の特色や意味を理解できるようにする。 複数の資料や解説資料の提示により、多角的に物事を捉えたり比較したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～2月 	<ul style="list-style-type: none"> 考察のポイントを示し、事実の前後関係を捉えたり、立場を変えて考えたりすることを意識する児童が増えてきた。が、個人差は大きく、単なる感想にとどまらないように個別指導する必要がある。

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

3・4年 写真や動画機能を用いて記録することで効果的に情報収集を行う。タブレット端末を用いて地域の方にインタビューした内容を確認して、大切なことを聞き直しメモして学習に生かす。

タブレット端末のインターネットを活用して、写真や地図などの画像や映像など多様な情報を収集する。

タブレット端末のロイロノート等を活用し、互いが調べた資料を共有したり、考え方を比較して話し合ったりする。分かったことをロイロノートにまとめ、発表を行う。

5・6年 写真や動画機能を用いて、多様な情報を効果的に収集する。そこから読み取った内容を整理・分類し、ロイロノート等を活用して記録したりまとめたりする。また、記録したことを共有し、収集した資料や児童の考えを比較しながら話し合う。

歴史学習では、各時代の人物、政治、経済などについて、タブレット端末を活用して調べ学習を行う。また、ロイロノート等を活用して記録したりまとめたりして発表する。

学習を通して身に付けた知識・技能を、タブレット端末を活用して共有し、多様な資料や考えに触れられるようにする。共有したことを基に話し合い、社会における課題を見出し、解決するための方法を考える。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

全学年

- 単元末に学習問題について学んだことを振り返る時間を設定する。
- 課題追究の段階で、自分の調べたことが予想や追究の視点とずれていないか確かめる時間を設定する。
- 写真、拡大した地図、地球儀などの具体的に空間の広がりや位置関係が理解できるものを用意する。
- 普段の会話から既習事項や時事問題等に触れ、学習内容を想起できるようにする。

さらに、特別支援教育の視点から次のような配慮をし、学びに向かう力を育成する。

全学年

- 調べ学習や図表の読み取りでは、少ない情報から確実に読み取れるように量を調節しながら提示し、積極的に学びに向かことができるようにする。